



澤本 長俊 議員

行財政改革推進計画

課題や政策を後回しにせず進めるべきでは？

答

議論を促し、補助金や使用料の見直しを進める

問

計画の中に選択と集中がうたわれているが、選択と集中をどのようにとらえ計画を進めているのか。

答

総務部長

各種事業の経過や効果を検証し、単に継続することなく費用対効果、公平性等の観点から必要性や効果等を見極め、事業の整理と合理化を図り、計画を推進しています。

問

事業の精査や補助金・使用料の見直しにあたり、担当部局としっかり協議し、市の

重要課題や政策方針を後回しにならないよう進めるべきと考えるがいかがか。

答

総務部長

予算編成で各部局の課題解決に向けた選択と集中の議論を促し、補助金や使用料の見直しを進めています。

問

担当部局は、しっかりと部局の方針や将来に向けての考えを発信できているか。

答

総務部長

市民の方には、将来に向けての考えや施策を明確に発信していきます。

行財政改革推進計画の重要な要素が歳出削減であることは理解しているが、力を入れるべき部分には投資していくことも大事と考える。また、その事業そのものの性質等も充分考慮していくべきである。

一例をあげるが、3月議会でスポーツ少年団たちの学校施設利用の使用料の方針において明確な答えが得られず、今後協議して決めていくとのことであったが、その方向性を決める前に、子どもたちが自分の学校施設を使って使用料が発生することに誰からも異論は無かったのか。本当に協議されたのか疑問に思う。



市内中学校のグラウンド